

**【午 前】**

過去2回のソフトウェア開発技術者試験では、旧第一種情報処理技術者試験と比べて平易な問題が多く出題されましたが、今回の試験では全体的に難易度は高めだったと言えます。特にコンピュータ科学基礎、開発・運用管理の分野において出題頻度の低い問題や、短時間では正誤判定不能な選択肢を含む問題、他の高度区分からの流用問題などが多く出題されていたため、見たことのない問題ばかりに感じられた受験生も多かったと思われます。今後は、旧一種の定番知識だけではなく、昨今の業務トレンドも含めた総合的な学習や、仕組みや原理まで含めた総合的な学習が求められていると言えそうです。

その反面、ハードウェア、ネットワーク、データベースでは難易度もそれほど高くありませんでした。これらの分野においては過去問題を用いた演習をいかに多く積み重ねたかがポイントになると考えられます。

**【午 後 1】**

それほど特異なテーマのものではなく、今までの出題と類似したものも多く出題されました。特に過去問題を中心にトレーニングを積んだ受験者から見れば、午前と比較して組し易かった問題といえます。また、アルゴリズム系の出題が少なく、問5はセマフォを知っている人やアルゴリズムが苦手な人にとっては取り組みやすかったかも知れません。ただし、セマフォを知らない受験者にとっては、問題の意図を汲み取るのに時間がかかったことでしょう。また、トラフィック計算や信頼度計算といった手間のかかる問題が多く、時間的難易度が高く、時間の面ではそれなりに厳しい試験であったと言えます。制限時間内で正解を導き出す訓練を積んでいたかどうか、計算問題のトレーニングも積んでいたかどうかポイントとなるでしょう。

**【午 後 2】**

問題自体はデータ中心設計がメインのテーマとなっており、難易度としては普通レベルであったと思われます。設問として主に問われているのは

- ・各表のキーおよび制約設定、正規化
- ・各モジュールで必要とする表資源の設定
- ・CREATE や DELETE などの「定義・操作」系 SQL に関する知識

といった内部設計的要素の強いものであり、具体的に問合せ結果を擬似言語で処理するといった、プログラミング的な要素はほとんどなかったため、取り組みやすい問題といえるでしょう。DBに関する基礎的な知識があれば、多くの解答欄を埋めることができたと思われます。ただし、SQLでは基礎的な文法であるにも関わらず、出題頻度の低いスキーマ操作系の構文が出題されたため、問い合わせ指定に的を絞って学習し

た受験者は苦戦を強いられたものと思われます。問い合わせ指定以外にも目を向けていたか否かが合否のポイントとなるでしょう。

以上